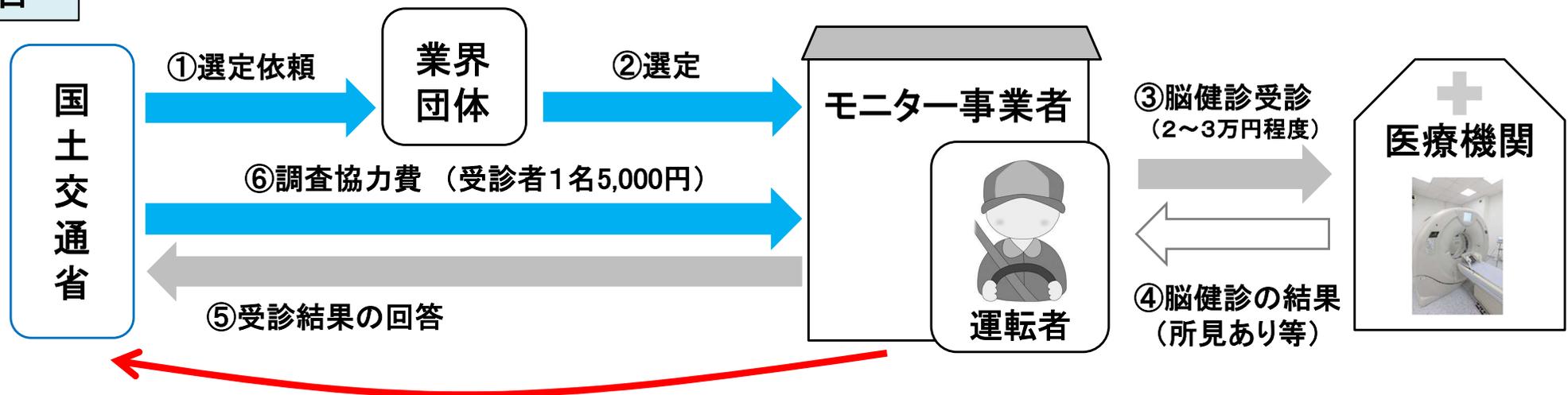


自動車運送事業者への 脳健診普及に向けたモデル事業の結果

令和2年度 事業用自動車健康起因事故対策協議会

- 健康起因事故防止のため、脳疾患の早期発見に有効とされるスクリーニング検査に積極的に取り組みたいと考えている事業者の中からモニター事業者を選定。
- 脳血管疾患対策ガイドラインに沿って、モニター事業者の運転者がスクリーニング検査を受診（H30:約1,200名、R1:約4,000名、R2:4,800名予定）。
- 脳健診の受診結果やその後の脳血管疾患の発症や治療の有無、勤務制限状況などについて調査（3年間）を実施。

1年目



2・3年目

【追跡調査】

事業者から国交省に対し、(1)脳健診受診運転者(所見あり)に係るその後の脳血管疾患の発症や治療の有無、(2)当該運転者の勤務制限状況、(3)各事業者の取組意識の変化、を回答。

脳健診受診
運転者合計
約10,000人

年度	H30	R1	R2	R3	R4
平成30年度 受診 1,200人	● 脳健診受診	◆ 追跡調査 (1年目)	◆ 3. 追跡調査 (2年目)		
令和元年度 受診 4,000人		● 1. 脳健診 受診	◆ 2. 追跡調査 (1年目)	◇ 追跡調査 (2年目)	
令和2年度 受診 4,800人			○ 脳健診 受診	◇ 追跡調査 (1年目)	◇ 追跡調査 (2年目)

本資料では赤字項目についての概要を
令和元年度受診、平成30年度受診の順に説明

1. 令和元年度 脳健診受診結果

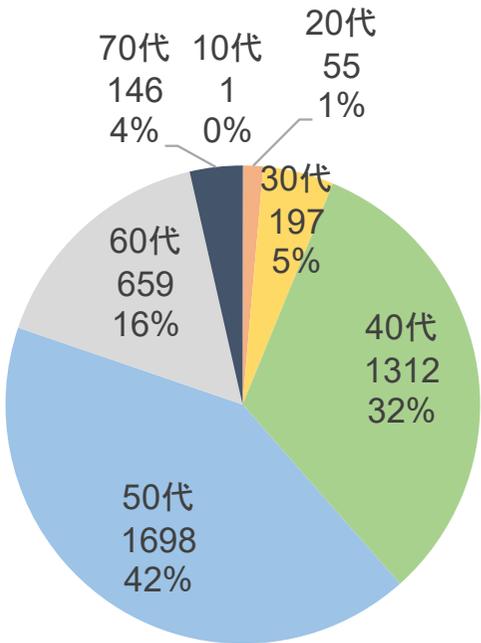
年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【受診者数】

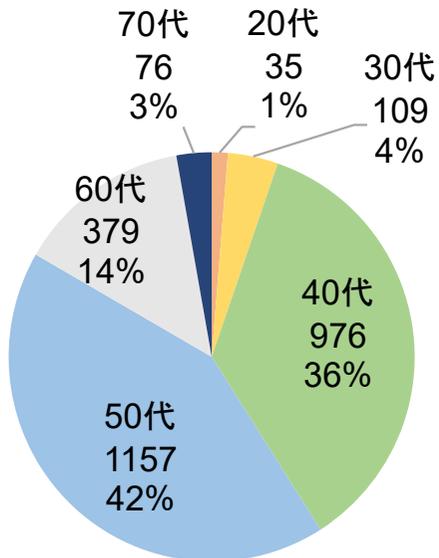
	バス	タクシー	トラック	合計
事業者数	52	21	64	137
運転者数	2,732	324	1,012	4,068

【年齢構成】

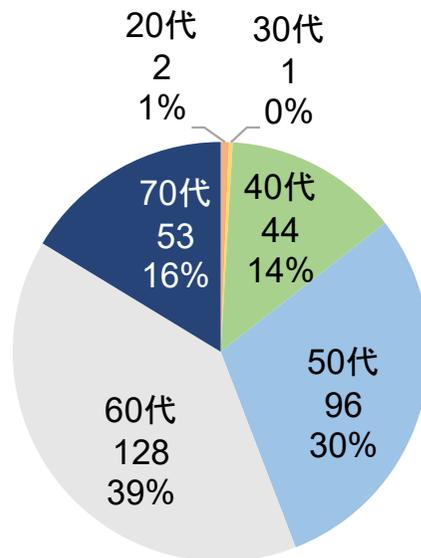
全体



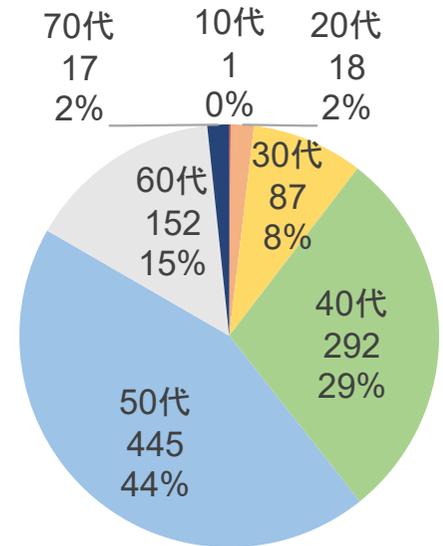
バス



タクシー



トラック



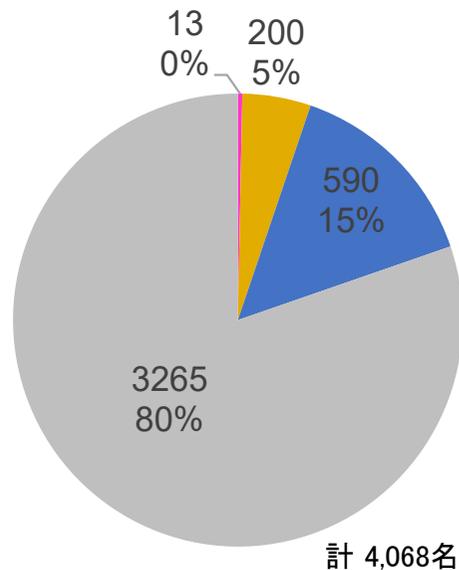
1. 令和元年度 脳健診受診結果

年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

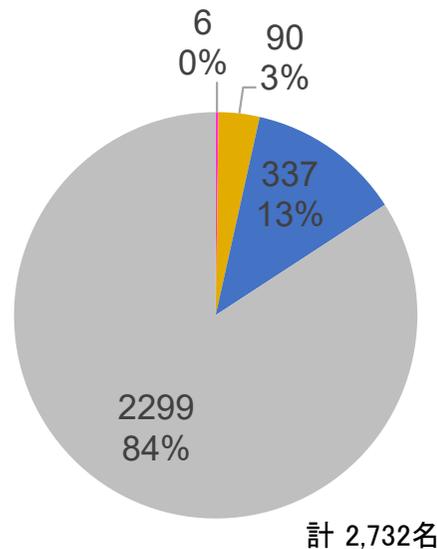
【受診結果】

- (1) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性あり)**」と診断された運転者は、**計13名(0.3%)**
(バス:6名、タクシー:3名、トラック:4名)
- (2) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性なし)**」と診断された運転者は、**計200名(4.9%)**
(バス:90名、タクシー:16名、トラック:94名)
- (3) 全受診者のうち「**異常所見の疑いあり**」と診断された運転者は、**計590名(15%)**
(バス:337名、タクシー:73名、トラック:180名)

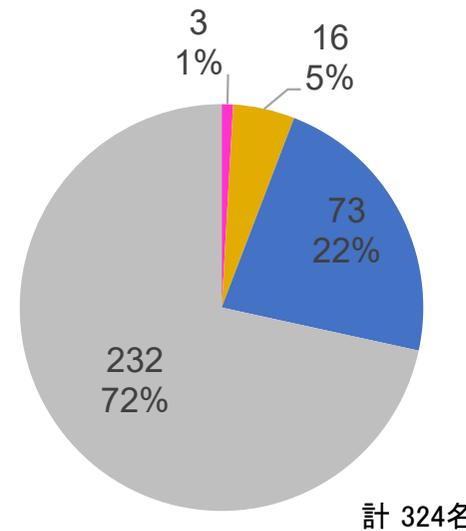
全体



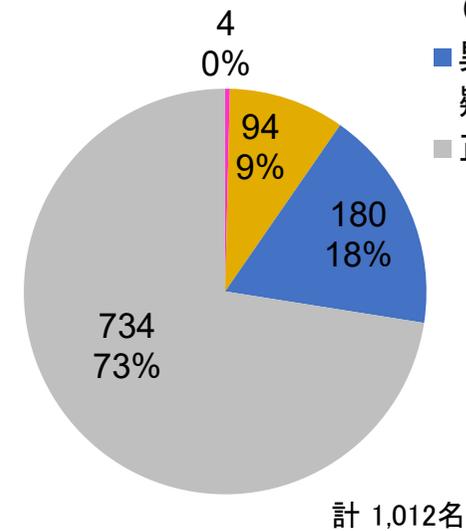
バス



タクシー

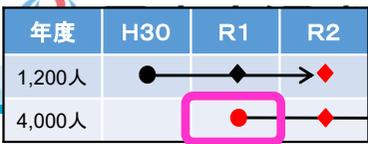


トラック



- 異常所見あり (緊急性あり)
- 異常所見あり (緊急性なし)
- 異常所見の疑いあり
- 正常

1. 令和元年度 脳健診受診結果



【受診結果(モード×年齢)】

※各セルの%の値は各行の右端の合計との比率

業態	年齢	異常所見あり (緊急性あり)	異常所見あり (緊急性なし)	異常所見の疑いあり	正常	合計
バス	10代	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0
	20代	0 (0.0%)	1 (2.9%)	2 (5.7%)	32 (91.4%)	35
	30代	0 (0.0%)	2 (1.8%)	4 (3.7%)	103 (94.5%)	109
	40代	1 (0.1%)	14 (1.4%)	130 (13.3%)	831 (85.1%)	976
	50代	3 (0.3%)	48 (4.1%)	138 (11.9%)	968 (83.7%)	1,157
	60代	2 (0.5%)	18 (4.7%)	49 (12.9%)	310 (81.8%)	379
	70代	0 (0.0%)	7 (9.2%)	14 (18.4%)	55 (72.4%)	76
	小計	6 (0.2%)	90 (3.3%)	337 (12.3%)	2,299 (84.2%)	2,732
タクシー	10代	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0
	20代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	2
	30代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1
	40代	0 (0.0%)	1 (2.3%)	12 (27.3%)	31 (70.5%)	44
	50代	0 (0.0%)	7 (7.3%)	42 (43.8%)	47 (49.0%)	96
	60代	3 (2.3%)	4 (3.1%)	15 (11.7%)	106 (82.8%)	128
	70代	0 (0.0%)	4 (7.5%)	4 (7.5%)	45 (84.9%)	53
	小計	3 (0.9%)	16 (4.9%)	73 (22.5%)	232 (71.6%)	324
トラック	10代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1
	20代	0 (0.0%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	17 (94.4%)	18
	30代	0 (0.0%)	4 (4.6%)	9 (10.3%)	74 (85.1%)	87
	40代	2 (0.7%)	17 (5.8%)	45 (15.4%)	228 (78.1%)	292
	50代	1 (0.2%)	44 (9.9%)	83 (18.7%)	317 (71.2%)	445
	60代	1 (0.7%)	25 (16.4%)	39 (25.7%)	87 (57.2%)	152
	70代	0 (0.0%)	3 (17.6%)	4 (23.5%)	10 (58.8%)	17
	小計	4 (0.4%)	94 (9.3%)	180 (17.8%)	734 (72.5%)	1,012
合計		13 (0.3%)	200 (4.9%)	590 (14.5%)	3,265 (80.3%)	4,068

2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

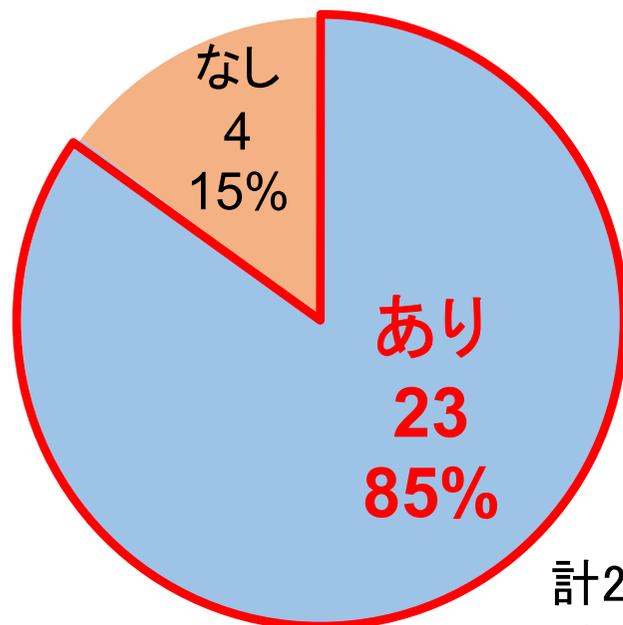
年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【事業者の対応】

(1) 初診または精密検査にて「異常所見あり(緊急性あり)」と診断された運転者

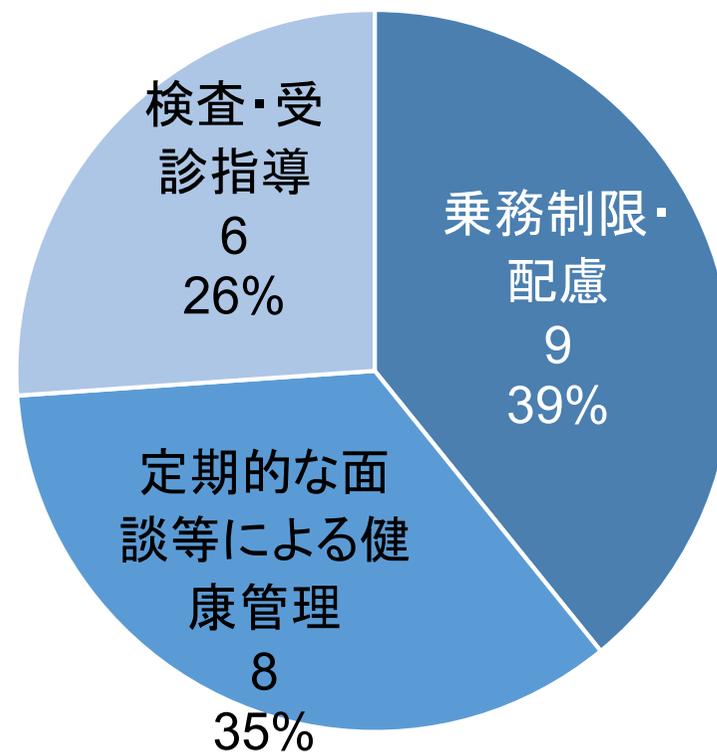
○「異常所見あり(緊急性あり)」と診断された運転者に対して、受診からおよそ半年までの間に何らかの対応をしたと回答した事業者は全体の85%

運転者に対する 事業者の対応有無

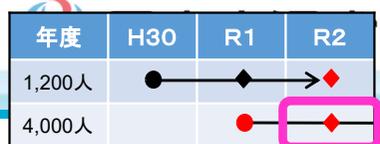


計27名
初期診断 13名
精密検査 14名

事業者の対応内容



2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)



【事業者の対応】

(1)-① 事業者にて「乗務制限・配慮」をしたケース(9件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	60代	異常所見あり (緊急性あり)	前交通動脈と右前大脳動脈に脳動脈瘤	コイル塞栓術施行 ⇒定期的に通院	[乗務制限・配慮] 手術後、医師の指示に従い空車訓練を実施した後、業務復帰	[通常乗務] 定期的に通院
2	バス	男	40代	↑	もやもや病	カテーテル手術 ⇒自宅療養	[乗務制限・配慮] 医師の指示に従い自宅療養させる	[乗務禁止] 自宅療養
3	バス	男	50代	↑	脳底動脈瘤	カテーテル手術 ⇒定期的に通院	[乗務制限・配慮] 所属長でもあるため、現在は乗務禁止としている 定期的に受診させ、結果を報告させる	[乗務禁止] 定期的に通院
4	トラック	男	40代	↑	前交通動脈瘤に約3mmの未破裂脳動脈瘤	減塩、野菜、果物の摂取、有酸素運動の継続実施 1年毎の画像フォローアップ	[乗務制限・配慮] 助手の作業(できる限り重量の軽い作業)を優先 運転の場合は近距離を優先	[制限付乗務] 助手の作業や近距離運転を優先
5	バス	女	50代	異常所見あり (緊急性なし) ⇒(緊急性あり)	下垂体部に直径23mm程度の腫瘍性病変	腫瘍の摘出手術 ⇒療養中	[乗務制限・配慮] 自宅療養としているが、本人から復帰の意思表示があれば主治医及び産業医の意見を踏まえ対応決定	[乗務禁止] 療養中
6	バス	男	60代	↑	左内頸動脈に未破裂の動脈瘤	カテーテル手術 ⇒自宅療養	[乗務制限・配慮] 本人希望もあり精密検査結果が出るまで自宅療養	[退職]
7	バス	女	40代	↑	左内頸動脈に外側向きに9mm程度の動脈瘤	手術	[乗務制限・配慮] 手術にあたっての休暇調整、復帰に向けた研修実施	[通常乗務]
8	トラック	男	50代	↑	脳動脈瘤	手術して切除 ⇒定期的に通院	[乗務制限・配慮] 近距離運行のみに変更し、本人と面談をしながら運行予定を組む	[制限付乗務] 近距離運行 定期的に通院
9	トラック	男	50代	↑	脳動脈瘤疑い	脳血管内ステント手術 ⇒6か月毎健診	[乗務制限・配慮] 術後しばらくは場内作業で、徐々に近距離運転業務へ復帰。定期的に面談し体調の確認	[制限付乗務] 近距離運行 6か月毎健診

2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

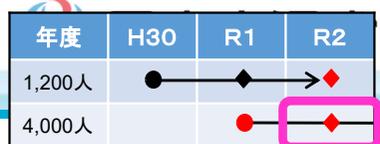
年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【事業者の対応】

(1)-② 事業者にて「**検査・受診指導**」をしたケース(6件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	タクシー	男	60代	異常所見あり (緊急性あり)	中脳・大脳脚部陳旧性脳梗塞	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	[通常乗務]
2	タクシー	男	60代	↑	大脳白質陳旧性脳梗塞、慢性副鼻腔炎	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	[通常乗務]
3	タクシー	男	60代	↑	右小梗塞、左脳動脈硬化性変化、後頭葉内側部慢性副鼻腔炎	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	[通常乗務]
4	トラック	男	60代	↑	左右中大脳動脈狭窄・右鼻粘膜肥厚	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	[通常乗務]
5	トラック	男	40代	異常所見あり (緊急性なし) ⇒(緊急性あり)	左脳動脈瘤	左脳動脈瘤クリッピング術 ⇒3~5年毎に受診	[検査・受診指導] 検査内容が重篤だったため、早急な受診・治療を指示	[通常乗務] 3~5年毎に受診
6	トラック	男	60代	↑	動脈瘤発見・手術	手術⇒定期的に通院	[検査・受診指導] 手術のための勤務調整	[通常乗務] 定期的に通院

2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)



【事業者の対応】

(1)-③ 事業者にて「定期的な面談等による健康管理」をしたケース(8件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	50代	異常所見あり(緊急性あり)	陳旧性脳梗塞	抗血小板の内服治療継続中	[定期的な面談等による健康管理] 健康状態および服薬状況を書面にて提出させ確認	[通常乗務]
2	トラック	男	40代	↑	右中大脳動脈に動脈瘤2か所	動脈瘤の除去手術 ⇒定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 治療最優先で勤務調整 受診ごとに状況を報告させる	[通常乗務] 定期的に通院
3	バス	男	50代	異常所見あり(緊急性なし) ⇒(緊急性あり)	4mmの脳動脈瘤あり、コイル治療適応	コイル塞栓術施行 ⇒抗血栓薬・降圧剤内服し、1年ごとのMRI検査	[定期的な面談等による健康管理] 術後まで休みとし、術後教習を経て運転業務に復帰 定期的に保健師による面談	[通常乗務] 現在は降圧剤のみ内服
4	バス	男	50代	↑	両側中大脳動脈の水平部/島部に、瘤状拡張の疑い	未破裂左右中大脳動脈瘤切除 ⇒経過観察	[定期的な面談等による健康管理] 定期的に通院し、結果を報告させ管理 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	[通常乗務] 定期的に通院
5	バス	男	50代	↑	左前大脳動脈に動脈瘤	クリッピング術 ⇒半年後のMRI検査で異常なし	[定期的な面談等による健康管理] 主治医の指示に従い、療養させたのち運転復帰 毎月、健康管理面談を実施 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	[通常乗務]
6	バス	男	50代	↑	硬膜同静脈瘤の疑い	治療完了 ⇒定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 定期的に通院し、結果を報告させ管理 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	[通常乗務] 定期的に通院
7	バス	男	40代	↑	右聴神経腫瘍	ガンマナイフ ⇒定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 産業医及び保健師が受診結果を踏まえて面談を実施	[退職]
8	バス	男	50代	↑	動脈瘤4.8mm程度	カテーテルによるコイル挿入手術	[定期的な面談等による健康管理] 手術希望という本人申出を受け、勤務調整 術後一週間は時短勤務によって見極め 健康状態を書面にて提出させ確認	[通常乗務]

2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【事業者の対応】

(1)-④ 事業者にて対応がなされなかったケース(4件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	60代	異常所見あり(緊急性あり)	左前頭洞に液体貯留と小さな腫瘍	-	-	[通常乗務]
2	バス	男	50代	↑	右前大脳動脈に長径8mm程度の未破裂脳動脈瘤	-	-	[通常乗務]
3	トラック	男	50代	↑	左脳血管に脳動脈瘤	-	-	[通常乗務]
4	バス	男	50代	異常所見あり (緊急性なし) ⇒(緊急性あり)	慢性副鼻腔炎	内服治療	-	[退職]

2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

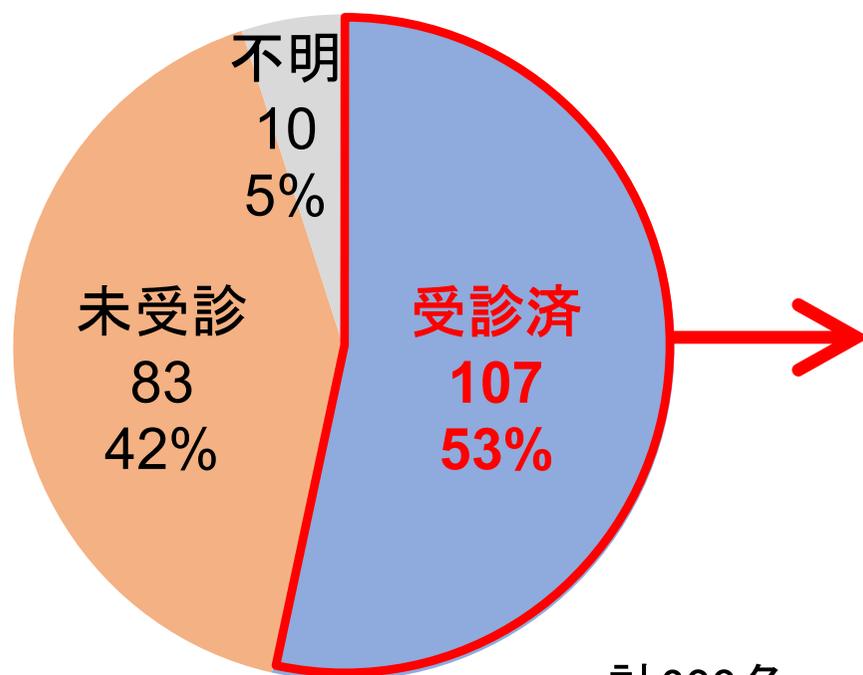
年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【事業者の対応】

(2) 初診にて「異常所見あり(緊急性なし)」と診断された運転者

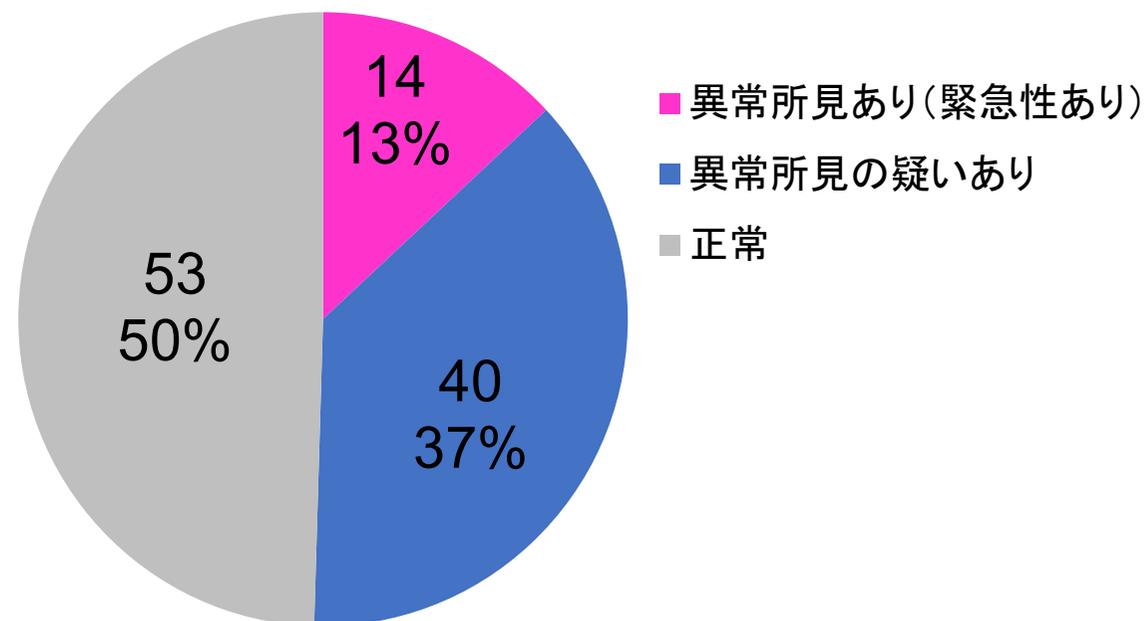
○「異常所見あり(緊急性なし)」と診断された運転者において、受診からおよそ半年までの間に精密検査を受診した運転者は全体の53%

精密検査受診割合



計200名

精密検査結果



精密検査後の事業者の対応については、**異常所見あり(緊急性あり)**、**異常所見の疑いあり**でまとめている通り

2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

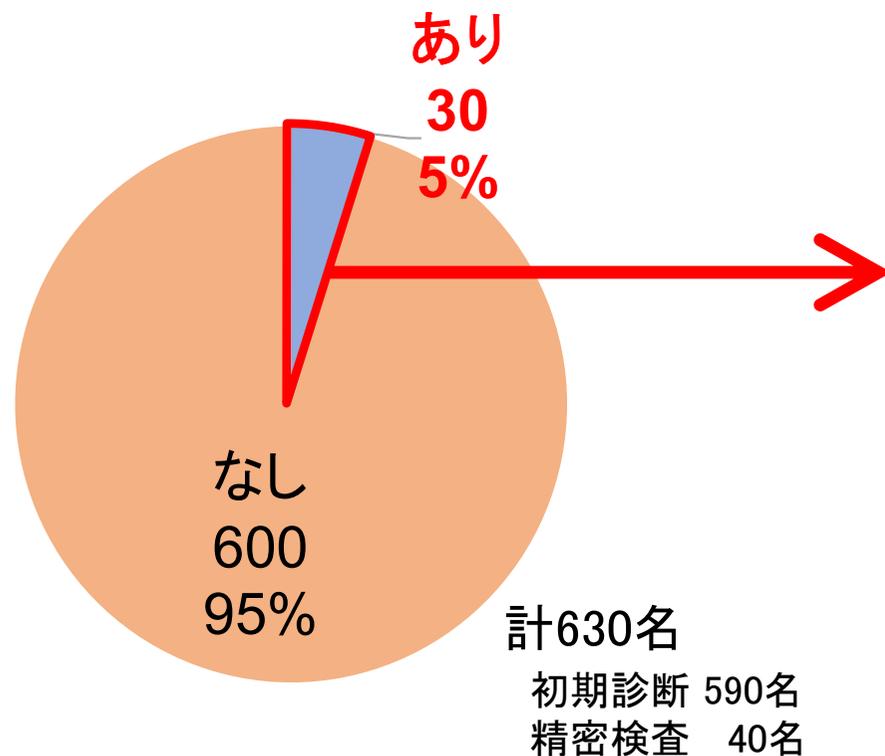
年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【事業者の対応】

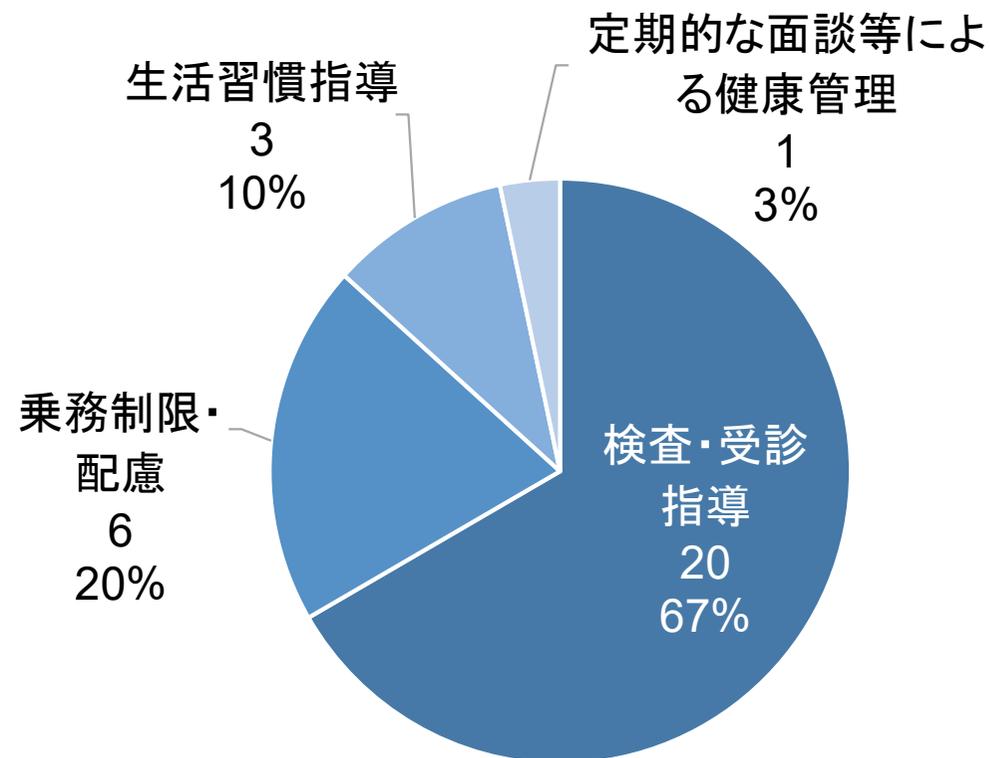
(3) 初診または精密検査にて「異常所見の疑いあり」と診断された運転者

○「異常所見の疑いあり」と診断された運転者に対して、受診からおよそ半年までの間に何らかの対応をしたと回答した事業者は全体の5%

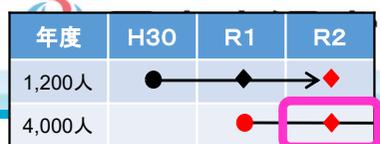
運転者に対する 事業者の対応有無



事業者の対応内容



2. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)



【脳血管疾患発症の状況】

○令和元年度に受診した4,068名のうち、健診後に脳血管疾患を発症したのは1名
 ○他方、脳血管疾患に起因する事故は発生していない

※令和3年1月時点報告分(3,616名)

初診の診断結果	初診または精密検査にて 検出された 異常所見(緊急性あり)	健診後に発症した 脳血管疾患患者	脳血管疾患に 起因する事故件数
異常所見あり(緊急性あり)(13名)	13名	0名	0件
異常所見あり(緊急性なし)(200名)	14名	0名	0件
異常所見の疑いあり(590名)	0名	0名	0件
正常(3,265名)	0名	1名	0件



	業態	性別	年齢	R1年度診断 結果	精密検査 の結果	事業者の対応 (発症前)	発症した脳血 管疾患の種類	発症した 時期	事業者の対応 (発症後)	現在の状況
1	バス	男	50代	正常	-	-	小脳梗塞	R2年8月	[定期的な面談等による健康管理] 産業医面談や医師の診断結果を踏 まえ運転業務に復帰させる 乗務前点呼にて血圧測定結果など を確認しつつ当該運転者の健康に 注意している	[通常乗務] 通院加療中

3. 平成30年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

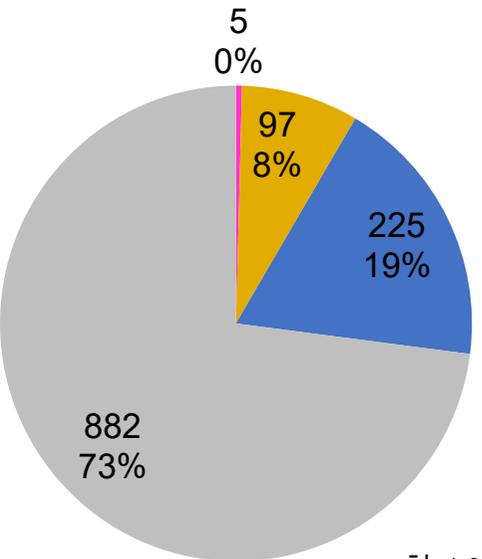
年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【受診結果】

※昨年度の会議資料では6区分でまとめていたが、委員からのご意見を踏まえ、ガイドラインに沿った4区分にてまとめ直し

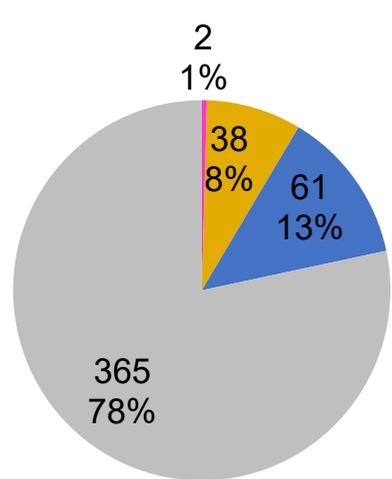
- (1) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性あり)**」と診断された運転者は、計5名(0.4%)
(バス:2名、タクシー:3名、トラック:0名)
- (2) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性なし)**」と診断された運転者は、計97名(8.0%)
(バス:38名、タクシー:30名、トラック:29名)
- (3) 全受診者のうち「**異常所見の疑いあり**」と診断された運転者は、計225名(18.6%)
(バス:61名、タクシー:117名、トラック:47名)

全体



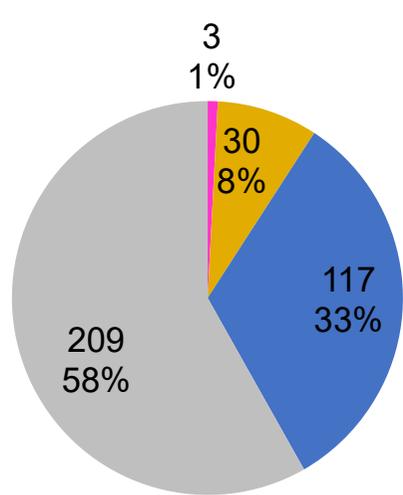
計 1,209名

バス



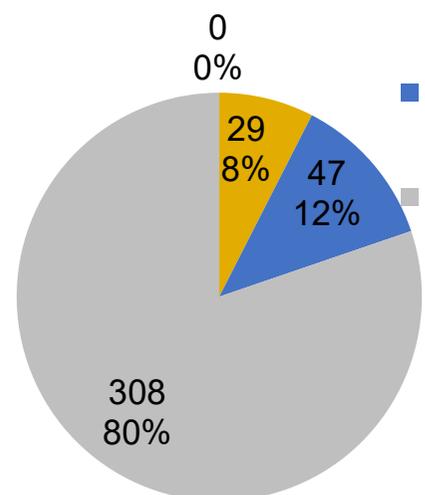
計 466名

タクシー



計 359名

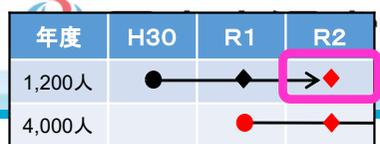
トラック



計 384名

- 異常所見あり(緊急性あり)
- 異常所見あり(緊急性なし)
- 異常所見の疑いあり
- 正常

3. 平成30年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

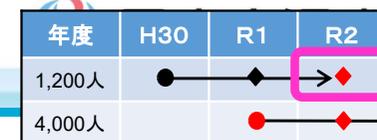


【受診結果(モード×年齢)】

※各セルの%の値は各行の右端の合計との比率

業態	年齢	異常所見あり (緊急性あり)		異常所見あり (緊急性なし)		異常所見の疑いあり		正常		合計
バス	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(100.0%)	1
	30代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(11.1%)	8	(88.9%)	9
	40代	1	(1.1%)	6	(6.9%)	10	(11.5%)	70	(80.5%)	87
	50代	0	(0.0%)	23	(8.9%)	34	(13.2%)	201	(77.9%)	258
	60代	1	(1.0%)	8	(8.2%)	12	(12.2%)	77	(78.6%)	98
	70代	0	(0.0%)	1	(7.7%)	4	(30.8%)	8	(61.5%)	13
	小計	2	(0.4%)	38	(8.2%)	61	(13.1%)	365	(78.3%)	466
タクシー	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	6	(100.0%)	6
	30代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(11.1%)	8	(88.9%)	9
	40代	0	(0.0%)	4	(8.0%)	13	(26.0%)	33	(66.0%)	50
	50代	1	(0.8%)	5	(3.8%)	44	(33.8%)	78	(60.0%)	130
	60代	2	(1.6%)	19	(14.7%)	51	(39.5%)	57	(44.2%)	129
	70代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	8	(22.9%)	27	(77.1%)	35
	小計	3	(0.8%)	30	(8.4%)	117	(32.6%)	209	(58.2%)	359
トラック	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	11	(100.0%)	11
	30代	0	(0.0%)	2	(3.9%)	4	(7.8%)	45	(88.2%)	51
	40代	0	(0.0%)	9	(7.7%)	10	(8.5%)	98	(83.8%)	117
	50代	0	(0.0%)	9	(8.1%)	14	(12.6%)	88	(79.3%)	111
	60代	0	(0.0%)	9	(13.0%)	17	(24.6%)	43	(62.3%)	69
	70代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(100.0%)	2
	不明	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(8.7%)	21	(91.3%)	23
	小計	0	(0.0%)	29	(7.6%)	47	(12.2%)	308	(80.2%)	384
合計		5	(0.4%)	97	(8.0%)	225	(18.6%)	882	(73.0%)	1,209

3. 平成30年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)



【事業者の対応】

(1) 初診または精密検査にて「異常所見あり(緊急性あり)」と診断された運転者

	業態	性別	年齢	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)		
				治療状況	事業者の対応	治療状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	40代	投薬治療 定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 運転業務についても問題ないという診断結果を受けて、通常乗務としている	投薬治療の継続 定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 引き続き通院による診断結果を確認しながらではあるが、現在も通常乗務としている	[通常乗務] 定期的に通院
2	バス	男	60代	手術	[乗務制限・配慮] 所定外労働の制限 ⇒乗務禁止 ⇒復職	定期的に通院	[乗務制限・配慮] 復職後に所定外労働の制限 ⇒非常勤運転者に変更(健康面関係なし) 週1回血圧測定し、基準値を超えた場合は乗務制限	[通常乗務] 但し血圧基準値を超えた際は乗務制限 定期的に通院
3	タクシー	男	50代	血圧、脂質、血糖値 正常に保つ治療	[検査・受診指導] 年1回の脳外科受診を促し、左記の治療を条件に通常乗務させる	-	-	[退職]
4	タクシー	男	60代	-	- [退職]	-	-	[退職]
5	トラック	男	40代	R1年2月手術、6ヶ月ごとの経過観察 R1年8月検査において異常なし	[定期的な面談等による健康管理] 面談を行い、検査結果において異常なし(運転可)であることを踏まえ通常乗務	6ヶ月ごとの経過観察	[定期的な面談等による健康管理] 面談や経過観察結果を踏まえ、通常乗務を継続	[通常乗務] 6ヶ月ごと経過観察
6	トラック	男	50代	投薬治療および血液検査	[検査・受診指導] 通常乗務 通院の指導	投薬治療および血液検査継続、R2年2月MRI検査異常なし	[検査・受診指導] 血液検査結果において異常なし(運転可)であることを踏まえ通常乗務を継続	[通常乗務] 投薬治療、血液検査
7	トラック	男	40代	カテーテル手術によるコイル塞栓術、6ヶ月ごとの経過観察	[乗務制限・配慮] 約2週間の入院と自宅療養の後、本人及び医師からの就業について意見確認し、復帰	6ヶ月ごとの経過観察	[乗務制限・配慮] 通常乗務ではあるが、過重労働にならないよう配慮	[通常乗務] 6ヶ月ごと経過観察

3. 平成30年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

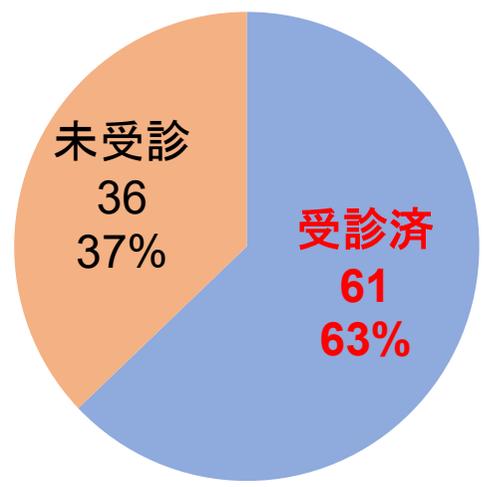
【事業者の対応】

(2) 初診にて「異常所見あり(緊急性なし)」と診断された運転者

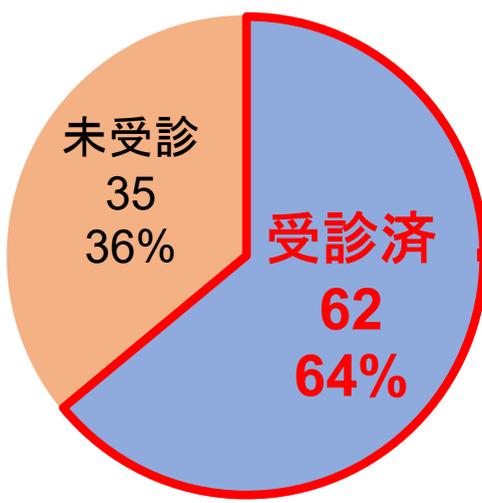
○「異常所見あり(緊急性なし)」と診断された運転者において、その後、2年目までに精密検査を受診した運転者は全体の64%

精密検査受診割合

1年目

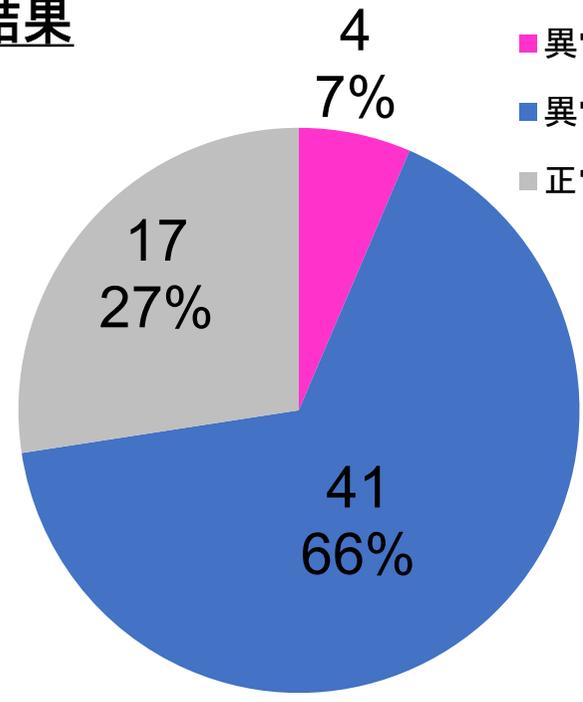


2年目



※1年目未受診者1名が新たに受診

精密検査結果



- 異常所見あり(緊急性あり)
- 異常所見の疑いあり
- 正常

精密検査後の事業者の対応については、**異常所見あり(緊急性あり)**、**異常所見の疑いあり**でまとめている通り

3. 平成30年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

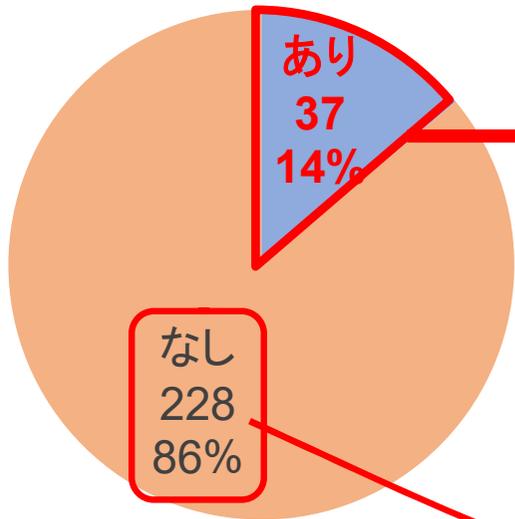
【事業者の対応】

(3) 初診または精密検査にて「異常所見の疑いあり」と診断された運転者

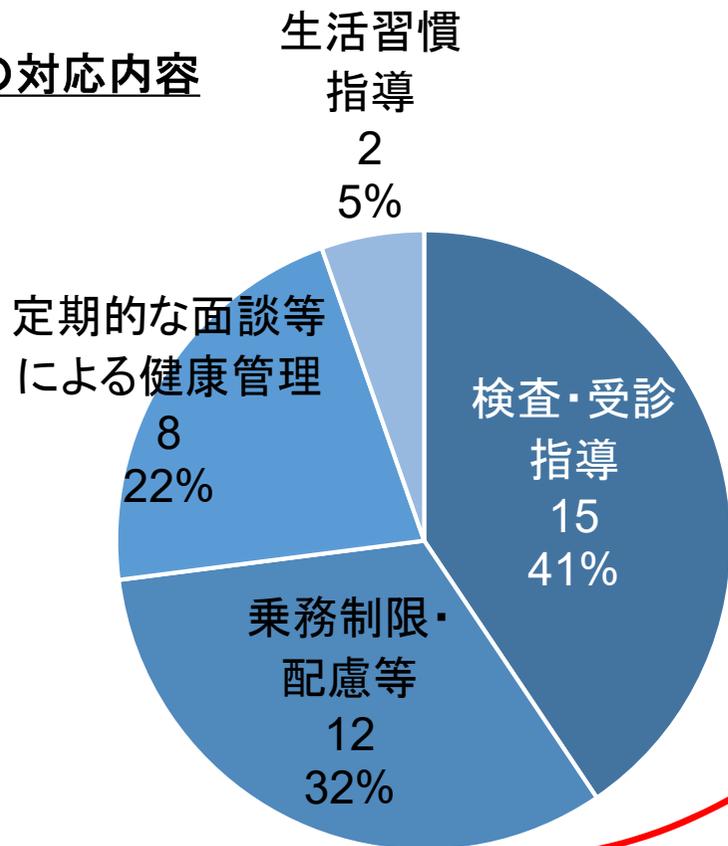
○「異常所見の疑いあり」と診断された運転者に対して、何らかの対応をしたと回答した事業者は全体の14%

1年目

運転者に対する
事業者の対応有無



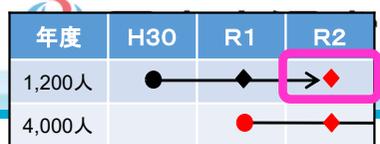
事業者の対応内容



2年目

1年目なしのうち1名:
「本人の希望に沿って
業務員に職種変更」

3. 平成30年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)



【脳血管疾患発症の状況】

- 令和30年度に脳健診を受診した1,209名のうち、健診後、
脳血管疾患を1年目に発症したのは3名、2年目に発症したのは4名
- 他方、脳血管疾患に起因する事故は発生していない

※令和3年1月時点報告分(958名)

診断結果	初診または精密検査にて検出された異常所見(緊急性あり)	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)	
		脳血管疾患発症者数	脳血管疾患に起因する事故件数	脳血管疾患発症者数	脳血管疾患に起因する事故件数
異常所見あり(緊急性あり)(5名)	5名	0名	0件	0名	0件
異常所見あり(緊急性なし)(97名)	4名	0名	0件	0名	0件
異常所見の疑いあり(225名)	0名	0名	0件	+1名	0件
正常(882名)	0名	3名	0件	0名	0件

3. 平成30年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

年度	H30	R1	R2
1,200人	●	◆	◆
4,000人		●	◆

【脳血管疾患発症の状況】

	業態	性別	年齢	H30年度診断結果	精密検査の結果	事業者の対応(発症前)	発症した脳血管疾患の種類	発症した時期	事業者の対応(発症後)	現在の状況
1	タクシー	男	60代	(正常) 大脳白質の小さな虚血性変化の疑い。脳主要動脈に明らかな異常所見を認めません。	-	-	悪性リンパ腫	H30年12月	[乗務制限・配慮] 6ヶ月の休職を経てR1年9月より業務復帰 復帰後は2カ月間は乗務数を減らしての対応以降通常運行継続	[通常乗務]
2	トラック	男	50代	(正常)	-	-	脳梗塞	R1年7月	[定期的な面談等による健康管理] 定期的に通院させ検査結果を確認	[通常乗務]
3	タクシー	男	60代	(正常) 大脳白質の小さな虚血性変化の疑い 脳・頸部の主要動脈に明らかな異常所見を認めません	-	-	脳梗塞	R1年11月	[乗務制限・配慮] 傷病休	[退職]
4	トラック	男	50代	(異常所見の疑いあり) 脳幹にラクナ梗塞が認められますので、専門医での経過観察が望ましい。	-	-	左多発性脳梗塞	R2年5月	[乗務制限・配慮] 自宅療養を経て復帰 以前の長距離運転業務から構内での運転業務と構内作業へ変更	[制限付乗務] 構内運転および構内作業

1年目

2年目

【好事例、実施した結果に対する効果等】

追跡調査対象事業者のうち54社から回答あり ※複数の回答をした事業者あり

アンケート回答内容 ※類似回答にて分類	回答事業者数	割合
運転者自身の意識向上につながった	26	48%
会社全体での健康起因事故防止に係る取組み増進等につながった	16	30%
早期発見につながったことが良かった	9	17%
運転者の健康状態が分かったことで安心感が得られた	8	15%
脳健診の費用負担が軽減された	5	9%
脳健診を受診する受診機会が得られた	3	6%
社外に対して健康管理を重要視しているということのアピールができた	3	6%
定期的な検査の重要性について理解した	3	6%
病院との関係づくりにつながった	1	2%
全運転者受診している	1	2%

【課題、実施した際に気付いた点等】

追跡調査対象事業者のうち43社から回答あり ※複数の回答をした事業者あり

アンケート回答内容 ※類似回答にて分類	回答事業者数	割合
脳健診の費用負担が大きい	14	33%
閉所恐怖症などのMRI不適合者への対応に苦慮	10	23%
受診医療機関が少ない	5	12%
診断結果を受けての対応が難しい	5	12%
運転者自身に健康管理への関心・モチベーションを維持させることが困難	3	7%
従業員の受診管理が難しい	3	7%
新型コロナウイルスの影響で受診計画が変更となった	3	7%
受診医療機関が複数になる(かかりつけ医と異なる、スクリーニング検査と精密検査で医療機関が異なる)と不便	2	5%
診断結果を受けての退職や就労辞退が発生した	2	5%
受診する運転者および運転不可と診断された運転者に対する代替運転者の確保が困難	2	5%
脳健診の予約が取りづらい	2	5%
検査結果が説明不足であるなど分かりづらい	2	5%
その他	6	14%